

よくある質問

● 出発地-目的地の流動と居住地-旅行先の流動が一致しない？

居住地から旅行先への流動表には、居住地が出発地と目的地のどちらとも一致しない場合（「周遊」）や、居住地が海外や居住地が不明の場合の旅客の流動量は含まれていません。そのため、出発地-目的地の流動よりも居住地-旅行先の流動の方が少なくなります。

● 行きと帰りはどのように集計されているの？

出発地から目的地までの流動において、行きと帰りの概念はありません。なお、仕事帰りの帰社・帰宅の流動は仕事目的としています。同様に、観光帰りの帰宅の流動は観光目的、私用・帰省帰りの帰宅の流動は私用・帰省目的としています。

一般的な行き（例：自宅から旅行先）と帰り（例：旅行先から自宅）を考える場合、出発地と居住地が一致している流動を“行き”、目的地と居住地が一致している流動を“帰り”と考えられます。

● 1日データと年間データの利用方法は？

1日データは、実際に調査をした日の行動を捉えたものですが、旅行者の利用目的や個人属性の把握や平日と休日の旅行の特性の違いを分析する上では、1日データを利用することになります。一方、年間データは1日で得られたサンプルを年間の輸送実績等で母集団推計したものですので、1年間の交通量全体を捉えることとなり、他の統計との比較も可能となります。

● 年間のデータベースに旅行目的、年齢性別の情報はないの？

旅行目的、年齢性別の情報については、1日データを基本に作成しており、季節ごとに旅行目的等が変わることを考え、年間データでの提供は行っていません。

● 207生活圏での集計方法（圏域を跨ぐものでも同一県内はカウントしない）

全国幹線旅客純流動調査では、都道府県を跨ぐ流動を対象としているため、207生活圏は異なるものの同じ都道府県に属している流動は対象となっていません。

● OD別交通サービス水準はどのように作成しているの？

OD別交通サービス水準データ（所要時間、費用、距離）は、国土交通省が提供する総合交通分析システム「NITAS：ナイタス」（2015年3月時点）をもとに、OD別代表交通機関別に所要時間が最小となる経路の所要時間、費用、距離を整備したものです。

OD別交通サービス水準の整備に係るゾーン中心地は、都道府県間ODでは、県庁等としています。207生活圏間ODでは、①都道府県間ODの中心地が属する生活圏については50府県ゾーンの中心地と同一地点とし、②50府県ゾーンの中心地が属さない生活圏については、生活圏内で人口が最も大きい市町村の役場としています。

● 類似調査との違いは？

都道府県間の流動を把握している類似調査として『旅客地域流動調査』があります。この調査は、交通機関毎に流動を捉えており、『総流動』となっています。そのため、真の出発地、目

的地の把握はできていませんが、都道府県内々の流動量は把握しています。一方、個人の利用者を捉えていないため、旅行目的や利用者の個人属性等は把握されていません。

●移動全体に占める割合

全国幹線旅客純流動調査では、幹線交通機関を利用して、都道府県間を跨ぐ場合のみが対象となっています。そのため、交通機関によって全体の交通量に占める割合が異なっており、航空では92.7%と高くなっていますが、都市内輸送や通勤・通学利用が多い鉄道では全体の1.2%程度となっています。

表1 全国の交通量に占める全国幹線旅客純流動調査で把握している交通量

(単位：100万人/年)

	航空	鉄道	旅客船	バス
(a) 全国幹線旅客純流動	89	288	6.2	45
(b) 旅客地域流動調査	96	24,114	78	4,269
全国幹線旅客純流動の割合 (a) / (b)	92.7%	1.2%	7.9%	1.1%

() 内は、全国幹線旅客純流動調査の交通量／旅客地域流動調査の交通量

● 第5回（2010年度）から第6回（2015年度）で交通インフラにどんな変化があったの？

第5回調査以降の2010年度から2015年度の間、以下の表に示すような空港、鉄道、高速道路が開業・開通しています。

ただし、全国幹線旅客純流動調査の調査日は2015年10月18日（休日）、10月21日（平日）ですので、2016年3月26日に開通した北海道新幹線は、1日データには含まれていません。

表2 全国の交通量に占める全国幹線旅客純流動調査で把握している交通量

2010年 (平成22年)		第5回全国幹線旅客純流動調査 実態調査	
		東北新幹線 八戸-新青森間開業[12月]	
東日本大震災（3月11日）			
2011年 (平成23年)		九州新幹線 博多-新八代開業[3月]	北関東自動車道全線開通[3月]
2012年 (平成24年)	ピーチアビエーション新規参入[3月]		新東名高速道路部分開通[4月]
	ジェットスター・ジャパン新規参入[7月] エアアジア・ジャパン新規参入[8月] 岩国空港供用開始[12月]		
2013年 (平成25年)	新石垣空港供用開始[3月] バニラ・エア新規参入[12月]		松江自動車道全線開通[3月] 高速ツアーバスが新高速乗合バスに移行[7月]
2014年 (平成26年)			紀勢自動車道(三重区間)全線開通[3月] 首都圏中央連絡自動車道部分開通(東名自動車道と中央自動車道が接続)[6月] 舞鶴若狭自動車道全線開通[7月]
2015年 (平成27年)		北陸新幹線 長野-金沢開業[3月]	常磐自動車道全線開通[3月] 徳島自動車道全線開通[3月] 東九州自動車道(大分県区間)開通[3月] 首都圏中央連絡自動車道部分開通(常磐自動車道と東関東自動車道が接続)[6月]
	第6回全国幹線旅客純流動調査 実態調査		
			首都圏中央連絡自動車道部分開通(東北自動車道と関越自動車道が接続)[10月]
2016年 (平成28年)		北海道新幹線 新青森-新函館北斗開業[3月]	新東名高速道路部分開通(伊勢湾岸自動車道と接続)[2月]

注) 高速道路については全線開通や他の路線との接続時など主要な開通を整理。